

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和2年9月25日（金）10時05分～12時05分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

澁谷企画調査官、知見主任安全審査官、横山係長、伊藤係長、市森係員、  
高木技術参与

福島第一原子力規制事務所

田中原子力運転検査官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当16名（テレビ会議システムによる出席）

## 5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、以下の説明があった。
  - 1号機ガレキ落下防止・緩和対策の進捗状況（天井クレーン支保の設置）
    - ✓ 天井クレーン支保及び設置手順の概要
    - ✓ 天井クレーン支保設置に係る支障ガレキの撤去作業は9月18日に完了。
    - ✓ 燃料取扱機（FHM）支保の設置後に天井クレーン支保の準備作業を開始し、11月から設置作業を実施予定。
  - 1号機原子炉格納容器（PCV）内部調査に係る干渉物切断作業の状況
    - ✓ 8月26日に発生したPCV圧力低下事象について、漏えい箇所を調査した結果、作業用カメラ治具のフランジ付け根部に割れを確認。原因として、当該治具を前回4月に使用した後の運搬・保管時に何らかの外力が加わり損傷したものと推定。予備品に交換し、運搬・保管時にはフランジ部に保護カバーを取り付ける対策をとるとともに、当該治具を設置の都度、隔離弁を操作する前に加圧リーク試験を実施することとした。
    - ✓ 9月4日にアブレシブウォータージェット（AWJ）装置の研磨材供給ラインにおいて必要な負圧が確保できなくなる事象が発生。調査の結果、研磨材供給用ホースの一部が折れ曲がっていると同時に、ノズルユニットとのジョイント部からホースが引っ張られて外れていることを確認。現在、原因調査及び対策検討中。
  - 3号機FHMマストケーブル損傷事象等に係る対応状況
    - ✓ 9月2日に発生した3号機FHMマストケーブルの損傷事象について、当該ケーブルを予備品に交換したが、動作確認の際に燃料つかみ具内の導通異常を確認。今後、燃料つかみ具を分解して異常箇所の修理を実施予定。
    - ✓ 9月9日に確認した3号機FHMクレーン主巻水圧ホースの被覆損傷については、当該ホースを予備品に交換して修理完了。
    - ✓ 9月19日に3号機FHMクレーン補巻から作動流体（水グリコール）の連続的な漏えいを確認。クレーン補巻水圧ホースの外観から、被覆の損傷及び膨らみを確認。原因として、水圧ホース内部のチューブの亀裂等により作動流体が被覆内に蓄積し、内圧により被覆が破損したものと推測。今後、予備品に交換予定。
  - 多核種除去設備等処理水（以下「ALPS処理済水」という。）の二次処理の性能確認試験の進捗状況
    - ✓ 性能確認試験の対象タンクとして、告示濃度限度比総和100以上のもの

